

第26回 経営協議会議事録

日 時 平成22年11月18日(木) 14時30分～16時30分

場 所 事務局3階共通会議室

出席者 山本学長

赤木委員、檜畑委員、松原委員、山口委員

堀内、平田、松浦、帯野各理事

(田中監事、竹内副学長、越本副学長、森口経済学部長、瀧システム工学部長、西村企画総務課長、葛西財務課長、谷口監査室長)

欠席者 南委員

(中村監事、松浦教育学部長、大橋観光学部長)

議 事

1. 国立大学法人和歌山大学教職員給与規程等の改正(案)について

山本学長と堀内理事から今年度給与改定の方針について説明があり、続いて西村企画総務課長から資料1に基づき改正内容についての説明があった。また、堀内理事から改定案以外の追加として、役員給与についても55歳以上の教職員同様に1.5%を引き下げるとの説明があり、審議の結果、了承した。

なお、以下のような意見交換があった。

○国家財政に頼る機関として仕方ないということを教職員に理解してもらわないといけない。剰余金について、給与としては配分しないにしても教職員や学生にとって効果的なものになるよう検討していただきたい。

○AO入試についてはどのようなものを考えているか

→高校までの学力を担保できる入試制度を考えていきたい。

○法人化されても人事院勧告の影響力は強いが、このままで良いのかは疑問であり、将来的に目指すところも考えていかないといけない。

2. 平成22年度第2次補正予算編成(案)について

松浦理事から資料2に基づき説明があり、審議の結果、了承した。

なお、以下のような意見、質疑応答があった。

○宇宙教育とはどのようなものか

→東京大学が主導であり、本学はソフト面(人材育成)を担当する。学生自主演習にも位置付け、超小型衛星(缶サット)などを題材に教養教育を伸ばしていると考えている。

報 告

1. 平成22年度上半期の財務状況等について

松浦理事から資料3に基づき説明があり、財務状況に大きな変動はないが外部資金に関しては他大学に比べて少ないので、獲得に努めていかなければならないとの報告があった。

山本学長から2011～13年度の重点課題として、①和歌山大学農・林プロジェクトの可能性、②教養教育改革、③同窓会組織との連携、④受験産業など外部からの分析に基づく大学改革の模索、⑤次代の大学・学部運営者の養成について説明があり、以下のような意見交換が行われた。

○東京外大も地域研究の弱さを克服した。和太は何をもって売りにするかという戦略作りが必要。

○海外大学の連携にしてもむやみやたらと行うのではなく大学の特色を活かしたものである必要がある。

○農林業は和歌山の特色でもある。醤油など和歌山が発祥のものもある。研究には実習林などの環境整備についても考える必要があるだろう。

○一次産業は生計を立てにくいという問題もある。職業教育も併せて行う必要がある。

○外部資金の獲得に関連しては同窓会組織の活用も必要であるが、資金を集めるためのノウハウを持った専門家も必要である。また、税額控除、顕彰、告知の3点も欠けてはならない。

以 上